

# SAIDAI CONCIERGE

サイダイコンシェルジュ

## 01 巻頭特集

# 埼玉大学は 女性の活躍を 応援します!

## 05 ラボ探訪 — Welcome to my laboratory —

教養学部 グローバル・ガバナンス専修 / サムレット研究室  
経済学部 メジャー：国際ビジネスと社会発展 / 川端研究室  
教育学部 学校教育教員養成課程 / 上野研究室  
理学部 基礎化学科 / 斎藤雅一研究室  
工学部 環境社会デザイン学科 / 田中研究室

## 10 人気 SNS を活用して 埼玉県産農林産物を若者にアピール!

学生のアイデアを採用してスタートした  
県公式インスタグラム「埼玉わっしょい」

## 11 目指せ! 次世代の若手研究者

第1回「梶田隆章賞」は  
理学部数学科卒業の赤羽裕太さんが受賞

## 12 サークル紹介

Formula Project SU-spirited

## 13 活躍する卒業生からのメッセージ

湘南モノレール株式会社 代表取締役社長  
尾渡 英生さん

## 14 学長のページ

学術、文化、芸術で活躍する卒業生 - 埼玉大学フェロー



埼玉大学マスコットキャラクター  
メリンちゃん

特別対談 堀田香織副学長 × 幅崎麻紀子准教授

# 誰もが生き生きと働き学べる 環境の実現に向けてできること

現在、埼玉大学では、女性の教員・職員が、その能力を発揮できる環境づくりを全学を挙げて推進しています。今回はこの取り組みにおいて中心的な役割を果たしている「埼玉大学男女共同参画室<sup>※1・2</sup>」室長の堀田香織埼玉大学副学長と「ダイバーシティ推進オフィス」のコーディネーターを務める幅崎麻紀子准教授の対談を実施。取り組みの内容や目指していることなどについて語っていただきました。



## 女性が活躍できる環境づくりを加速させるために

**堀田副学長(以下、敬称略)** 現在埼玉大学の女性教員は全体の17%しかいません。これでは胸をはって男女平等とは言えません。我々は女性が働きやすく、学びやすい大学をつくらうとしています。まず女性教職員の数を増やし、大学をリードする役職につく女性も増やしたいです。子育てや介護を担

う女性が働きやすい環境をつくりたいですし、男性と女性の「かくあるべき」といった固定的な考え方を無くしたいです。これらは女性のためだけに行っているわけではありません。例えば、女性が子育てや介護をしながら働きやすい環境は、男性にとっても子育てや介護に参加しやすい、つまりワークライフバランスがとりやすい環境だからです。

**幅崎准教授(以下、敬称略)** この取り組みは誰もが働きやすい環境をつくるということですね。

**堀田** その通りです。さらに2017年埼玉大学は文部科学省の事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ<sup>※3・4</sup>」に選ばれました。そして、男女共同参画室の中に「ダイバーシティ推進オフィス」ができたのです。埼玉県と連携して「彩の国女性研究者ネットワーク<sup>※5</sup>」を立ち上げるなど、学内外のダイバーシティ研究環境を実現する取組も進めています。今回、幅崎先生に、この推進オフィスのコーディネーターに就任していただいた訳ですが、埼玉大学の印象はいかがですか？

**幅崎** 私は埼玉大学の卒業生ですが、久しぶりにキャンパスを歩くと、以前に比べ、女子学生や若い女性研究者が増え、キャンパスが明るくなったように感じます。これまでの男女共同参画室の取り組みで、女性が増えたのでしょうか。

**堀田** 確かにここ数年、女子学生も女性教員の数も上昇傾向にありますが、まだまだその数は世界的な水準に達していないのが現実です。そこで、ダイバーシティ推進オフィスを設置して、この流れを加速させていこうということなのですが、具体的な目標として、女性教員採用比率を人文社会系部局においては40%、教員養成系部局においては30%、自然科学系部局においては20%以上に、また、女性事務職員の採用比率を50%とすることを掲げています。

**幅崎** この数字を実現するのは大変です。大学が丸一丸となって、目標達成に向けてアクションをおこしていかなければなりません。その1つとして、来年度の採用の中で、女性限定の公募が行われます。このような取り組みの実施には、学内の理解が欠かせませんが、



幅崎 麻紀子(はばざき まきこ)

ダイバーシティ推進オフィス准教授。1990年埼玉大学教養学部卒業。筑波大学、電気通信大学などのダイバーシティ推進室准教授を経て、2018年より現職。

今回実現できた要因はどのようなところにあるとお考えでしょうか？

**堀田** 学内の理解や後押しはもちろんありましたが、なにより学長がリーダーシップを発揮して、大学としての方針を明確に示したことが大きいと思います。

### 魅力のある女性教員がいなければ女子学生も集まらない

**堀田** 例えば理工系で女性の教員や研究者が少ないのは、そもそもその卵である女子学生が少ない——という事実が背景にあります。それ故、これまでは「理工系の女性学生を増やさなければならぬ」ということがしばしばいわれてきました。しかし、我々は「女性教員が少ないところに女子学生は集まらないだろう」と逆に考えています。ですから、まず優秀で魅力のある女性教員を集めることに注力しているのです。

**幅崎** それと、中高生のうちから女子も理工系に進みたいと思えるような仕組みを作る必要があると思います。ですから、ダイバーシティ推進オフィスも大学内だけでなく、中高生やその保護者、教員を対象に、様々な取り組みをしていく必要があると考えています。

**堀田** 確かに、理科や数学というと、女性には向かないというようなイメー

ジが社会にはありますね。性別で能力に差はないはずなのに——。

**幅崎** 農学分野の女子学生の方が半数を超える大学も出ていますが、電気や土木工学になるとやはり少ないです。

**堀田** また大学生から大学院生、そして教員になるに従って、女性の比率はさらに小さくなっていきます。これまで大学院で博士号を取得して、研究者になる女性は珍しく、ロールモデル<sup>※6</sup>となるような人材がいなかったから、目指す人も少なかったのだと考えられます。そこで大学教員をはじめ、企業や公的機関の研究者にも女性がいることを示していくことも大切だと考えています。理工系でも、女性が活躍できる多様な進路があることを発信していきたいです。

### ダイバーシティ推進が学生に及ぼす効果とは？

**幅崎** ダイバーシティ推進とは、性別や国籍や年齢に関わらず、ハンディキャップのある方も、様々な悩みや問題を抱えている方も、誰もが持てる力を発揮できる環境をつくろうという活動です。そして、このような取り組みを進めている大学で学ぶことで、自分とは異なる個性を理解し、多様な人を



**堀田 香織(ほった かおり)**  
副学長。教育学部教授。1991年 東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学。2006年より埼玉大学教育学部教授。2016年度より副学長兼任。

大切に、ともに生きていこうとする感覚が養われると思います。また、そのようなマインドを大切にしている大学だからこそ、学生の持てる力を発揮することができるのではないのでしょうか？

**堀田** そうですね。埼玉大学は男性も女性も生き生きと活躍できる雰囲気や環境があるので、女子学生も男子学生も安心して、ここから羽ばたいてほしいです。

**幅崎** 教員や職員が生き生き働くことができる環境は、学生にとっても学びやすい環境です。学生の皆さんも伸び伸びと力を発揮していただきたいです。

## 用語解説

※1 **男女共同参画社会**……「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」（男女共同参画社会基本法）のこと。

※2 **埼玉大学男女共同参画室**……男女共同参画の精神に則った教育・研究・就業を実現するために設立された学内組織。

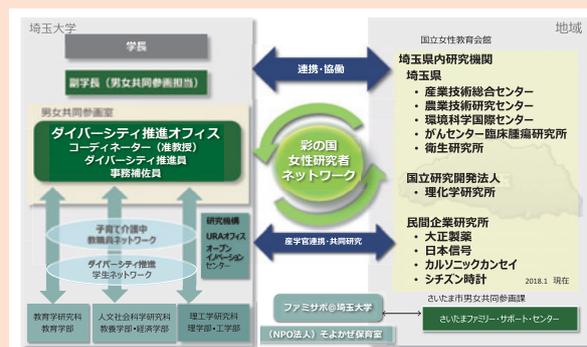
※3 **ダイバーシティ**……多様性を意味する言葉。ダイバーシティ社会とは、性別や国籍などに関わりなく、多様な人々が力を発揮し、共存する社会のこと。

※4 **ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ**……女性研究者が活躍するための取り組みを支援する文部科学省の事業です。支援対象には、出産・子育て・介護と研究との両立や女性研究者の研究力向上などに関して優れた取組みを行う大学・独立行政法人が選定されています。

※5 **彩の国女性研究者ネットワーク**……2017年、埼玉県の研究機関と埼玉大学が連携して立ち上げた組織。県内の女性研究者交流会の

開催、研究機関との相互訪問などによる「女性研究者の研究力向上」や「女性研究者が活躍しやすい環境づくり」「研究者を目指す女子学生の育成支援」など、多岐に渡る活動を行っています。

※6 **ロールモデル**……お手本となる人、目標となる人のこと。



# 埼玉大学で活躍する女性と 社会で活躍する女子卒業生たち

いまや女性が活躍できるフィールドは様々。ここでは埼玉大学内で生き生きと研究や仕事に従事する女性や、社会で活躍する卒業生達——。それぞれの仕事の魅力や現在の仕事に就くまでの歩みなどを紹介します。

みんな  
かっこいいね！



## 大学研究者（自然科学系）



現在、埼玉大学理工学研究科で、微細藻類や植物を使い「環境変化に応答した光合成の制御メカニズム」を解明する研究を行っています。光合成は、酸素を作り出し化石燃料や農作物にも関係するため、我々の暮らしと密接なつながりがあります。光合成研究を発展させることで、収量の多い農作物や藻類を原料にした燃料生産への応用が期待できます。

どのような研究でも同じだと思いますが、自分で立てた仮説が実験によって証明された時の喜びは何物にも変えがたいものです。そして、大学は基礎研究に専念できる研究機関。未知の現象を探求するという視点で、研究に携われることがこの仕事の最大の魅

力ですね。また、年長の教授から若い学生さんまで、世代を超えた者同士で議論しながら研究を進められる点も大学の魅力です。

理系の研究室という24時間年中無休というイメージを持つ人もいるかもしれませんが、多くの研究者は、計画的に研究を進め、オンとオフを区別することで、研究活動とプライベートのいずれも充実させています。

**高橋 拓子** (たかはし ひろこ) さん  
埼玉大学大学院理工学研究科助教

東京都立竹早高等学校出身  
2004年 岡山大学理学部生物学科卒業  
2010年 岡山大学自然科学研究科博士課程修了  
2010年 フランス国立科学センター  
生物物理化学研究所博士研究員  
2015年より現職

## 大学研究者（人文科学系）



埼玉大学をはじめとする複数の大学で非常勤講師として、ドイツ語やデザイン史を教えながら、19～20世紀のオーストリアを中心としたドイツ語圏の近代デザイン史の研究をしています。なお、現在取り組んでいるテーマは、第一次世界大戦頃のオーストリアの女性デザイナーの役割についてです。

私の専門は、デザイン史ですが、デザインというのはすべて生活につながっているものです。それ故、デザインの背景にどのような思想があるかということを考えることで、現在の生活に対して新しい視点を持つ——そのようなところがこの研究の醍醐味です。

私は大学院の修士課程中に2年間オーストリアに留学をして、通常は2年のところを4年かけて修了しましたし、博士課程では2年間休学して、学外で働いた経験もあります。

研究者としては、どちらかというと、回り道をしてきましたが、このような経験は、自分の視野を広げることができ、現在、研究を行う上でも大いに役立っていると思います。

**角山 朋子** (かくやま ともこ) さん  
デザイン史研究者、獨協大学、埼玉大学など  
非常勤講師

神奈川県立横須賀高校出身  
2006年 横浜市立大学国際文化学部  
欧米文化学科卒業  
2016年 埼玉大学大学院文化科学研究科  
博士課程修了

## 大学職員



埼玉大学の学長室で、大学の経営に関する様々なデータを収集・分析するIR活動を担当しています。なお分析した結果は、学長や副学長といった役員の意思決定——つまり大学の経営戦略に使われます。

この仕事に就いて、まだ2年弱ですが、本学のIR活動自体が、最近スタートしたばかり。それ故、様々なチャレンジができるのがこの仕事の魅力ですね。例えば昨年度は、データを用いて経営内容や財務状況などを客観的に示す「ファクトブック」という冊子の作成を提案し、はじめて作成しました。

学長室に配属される前は、財務課で予算や決算に関する業務や教育学部の学務係で教務に携わってきましたが、可能であれば

今後は大学の事務に関するすべての仕事を極めたいと考えています。

大学職員の魅力は、学生の教育や生活を支援できるということ。現在の業務では直接学生とやり取りすることはありませんが、経営戦略支援も結局のところ学生支援につながると考えて、日々の仕事に向き合っています。

### 梅村 由佳(うめむら ゆか)さん

埼玉大学職員

淑徳与野高等学校出身

2008年 埼玉大学経済学部社会環境設計学科卒業

2008年 埼玉大学学務部教育学部支援室

2010年 埼玉大学財務部経理課

2013年 埼玉大学財務部財務課

2016年より現職

## 小学校教諭



大学時代は教育学部に在籍していましたが、元々は高校の英語教師を目指していたため、英語を中心に学びました。そんな私が小学校の教師になろうと思ったのは、教育実習がきっかけ。実際に小学校に行って、1日中一緒にいる子供たちと深い絆が築けることに加え、その成長を近くで見られることに大きな魅力を感じたからです。就任1年目は2年生、2年目は1年生の担任を務めました。教育実習で感じた通り、日に日に成長する子供たちと様々な喜びを共有することができました。

比較的女性が多い小学校の教員は、制度が整っていることに加え、周りの理解もあるので、女性が働きやすい職種だと思いま

す。実際に産休や育休後に仕事に戻る先生がほとんどですし、育児をしながら働く先生もいます。ですのでこの4月に結婚する予定ですが、子育てと仕事の両立などについてはあまり心配していません。もちろん仕事をしていれば大変なこともあります。しかし、教師という仕事は、それ以上のやりがいと魅力があることを実感しています。

### 伊藤 優希(いとう ゆうき)さん

さいたま市立土合小学校教諭

岩手県立宮古高等学校出身

2016年 埼玉大学学校教育教員養成課程卒業

2016年より現職

## マーケティングリサーチオペレーター



大学のゼミではマーケティングを専攻しましたが、合同説明会でマーケティングリサーチという業種があることを知ったのをきっかけにこの業界に入りました。商品やマーケティング施策の改善などに直接反映される調査に携われることに魅力を感じたからです。現在は医薬品や医療機器を専門とした市場調査会社に勤めています。例えば医薬品メーカーの依頼で、弊社が提携している医師にアンケートを行い、薬の使い方や市場シェアなどの調査・集計・分析をします。その中でも私は主にWebを介して実施するアンケートプログラムの構築や調査報告書の作成などを担当しています。

元々興味があって、大学時代に学んだ知

識が生かせる仕事に就いていますが、マーケティングに関する仕事には、リサーチ業のように一般にはあまり知られていないものもあります。世の中には本当に色々な仕事がありますので、「自分の勉強したことを活かせるフィールドはたくさんある」ということを知り、それに向けて自分の興味があること・好きなことを学んでいければ、きっと将来の選択肢が広がると思います。

### 鈴木 美緒(すずき みお)さん

株式会社エム・シー・アイ

ヘルスケアパートナー事業部オペレーションチーム所属

埼玉県立熊谷女子高等学校出身

2012年 埼玉大学経済学部経営学科卒業

2012年 株式会社インテージ入社

2015年より現職



Welcome to my laboratory

ラボ  
探訪

教養学部 グローバル・ガバナンス専修 / サムレト研究室

## 統計分析を通じて、経済学の視点から 発展途上国の社会的課題を解決する

### カンボジアの農村地域の 家計から見えること

発展途上国における貧困や格差といった社会経済の諸問題を経済学の理論を用いて考察する「開発経済学」が私の専門としている研究分野です。

この研究では、論文や資料の分析の他、現地調査が欠かせません。

いくら似たような視点で書かれた論文や資料をあたっても、国や地域によって差異がありますし、どうしても現実とのタイムラグが生じてしまいます。ですので、対象地域に足を運んで、実際に自分の目で確かめたり、調査を行う必要があるのです。そこで、現在、母国であるカンボジアを中心に実証分析を行っています。

調査内容は、カンボジアの農村の貧困世帯の家計に関するものです。約60の世帯に協力してもらい、1年間毎日

の収支を記録してもらい、集計。お金の使い方から行動パターンを明らかにし、貧困の構造を解き明かすのです。

例えば、この調査から貧困世帯の大半で高金利の借入れをしていることが分かりましたが、このような事実によって公的金融機関による農村地域へのマイクロファイナンス(小規模金融)の必要性が示唆されます。

### 今後は対象地域を広げ 普遍性のある理論を追究

将来的にはこのような調査を、カンボジアだけでなく、他の東南アジア諸国にも拡大し、国ごとの比較分析などを行うことで、さらに有益な情報を得ていきたいと考えています。

現地調査は、現地当局や地域の有力者などと調整しながら進めつつ、得られる情報にバイアスがかからないよう

に細かい注意を払いながらコミュニケーションをとらなければいけないなど、独特の難しさがあります。

しかし、調査が大変だからこそ、分析結果から自分の仮説の整合性が実証されれば大きな喜びを感じることができるのです。



カンボジアで実施した農村調査での1シーン

### Profile

Samreth Sovannroen[サムレト ソワンロン]  
教養学部 准教授

2003年 大阪大学経済学部卒業  
2009年 京都大学経済学研究科博士課程修了  
2011年 埼玉大学教養学部講師  
2013年より現職

### message

サムレト  
准教授より  
受験生へ



### 積極性が英語力をアップさせる

ゼミに参加する学生は、開発経済学の理論を学ぶと共に、現地調査の進め方なども学びます。その一環として私が調査を実施しているカンボジアの農村に同行して、村民にインタビュー調査を行う機会も設けています。

演習では、英語の文献も使いますし、留学生を含めて英語でディスカッションを行うこともあるので、学生には英語を使って積極的にコミュニケーションをとる姿勢を持ってもらいたいですね。たとえ上手ではなくても、そのような姿勢でゼミに臨めば、必ず英語は上達すると思いますので――。

### 多様な教員と留学生がグローバル人材を育てる

埼玉大学の教養学部には、様々な国籍の先生がいらっしゃいます。研究の分野も異なる、そのような先生方と接することで、自分の視野を広げられるのは、この大学で研究をするメリットの1つ。多様性のある環境が、研究の質を高めるのに非常に役立っていると感じます。また、開発経済学を学ぶ上では、異なる文化を理解する意識を持つことが重要です。それ故、学生にとっては、教員の多様性に加え、留学生の存在も意義深いと思います。グローバル時代に活躍できる人材になるためにも、このような環境で勉強した経験は大きな糧になるのではないのでしょうか？



Welcome to my laboratory

ラボ  
探訪

経済学部 メジャー:国際ビジネスと社会発展/川端研究室

# グローバル時代のマーケティング—— その課題と解決策を考察する

## 国内市場と海外市場で異なる マーケティング戦略の最適解

近年、市場のグローバル化が急速に進行していますが、言語や時差、文化、商習慣などの違いによって、海外でマーケティングを行う際にどのような課題があるのかを考察する国際マーケティング論を受け持っています。

その中でも、私が個人的に進めているのは、小売業に焦点をあてた研究。現在は、海外向けにインターネット通販で商品を販売する「越境EC」やインドネシアにおける日本のコンビニエンスストアの動向といったテーマに取り組んでいます。また、研究対象は日本企業だけとは限りません。例えば、いま欧米ではドイツ系のアルディとリドルというボックスストア(梱包箱のまま商品を販売するスーパーのこと)チェーンが勢いづいています。これら

のチェーンは、今後日本にも参入することが考えられますので、今のうちから研究しておくことで、対策を講じる日本企業の役に立てるのです。

## 低迷が続く日本経済復活に貢献？

国際マーケティングの研究で難しいところは、状況が変化し続けるという点。そのため、研究に終わりはなく、継続的に取り組むことが必要になります。

研究を進めるには、企業へのインタビューや文献を調べるのはもちろん、現地調査も必要不可欠です。さらに今後起こりそうなトレンドや新たな動きを一足先に捉えるため、アンテナをはっておくことも重要。海外に定期的に訪れ、調査を行うようにしているのは、これが理由です。

例えばイケアやコストコのような、それまで日本になかった新業態の小売

店舗に行くと、日本の店舗との違い、もしくはなぜ成功しているのか？ということに興味を湧いてきます。研究を続けるモチベーションの1つには、それを解き明かしたいという探究心があるのは間違いありません。

また、研究から導き出した結果は、日本企業の国際進出が成功するためのマーケティング戦略立案のヒントにもなります。つまり、現在、少々活力を失っている日本経済の発展に貢献する——そのようなことを考えながら研究に取り組んでいるのです。

## Profile

川端 庸子 [かわばた やすこ]

経済学部 准教授

2000年 明治大学経営学部経営学科卒業

2005年 阪南大学専任講師

2006年 明治大学経営学研究科経営学博士課程修了

2008年 阪南大学経営情報学部准教授

2014年 阪南大学経営情報学部教授

2016年より現職

## message

川端准教授より  
受験生へ



## 多様なフィールドで深い学びを得る

ゼミでは、国内外を問わずグローバル展開している企業や新しいビジネスモデルを調べる事例研究が中心になりますが、来年度からは企業のインタビューなども実施する予定です。

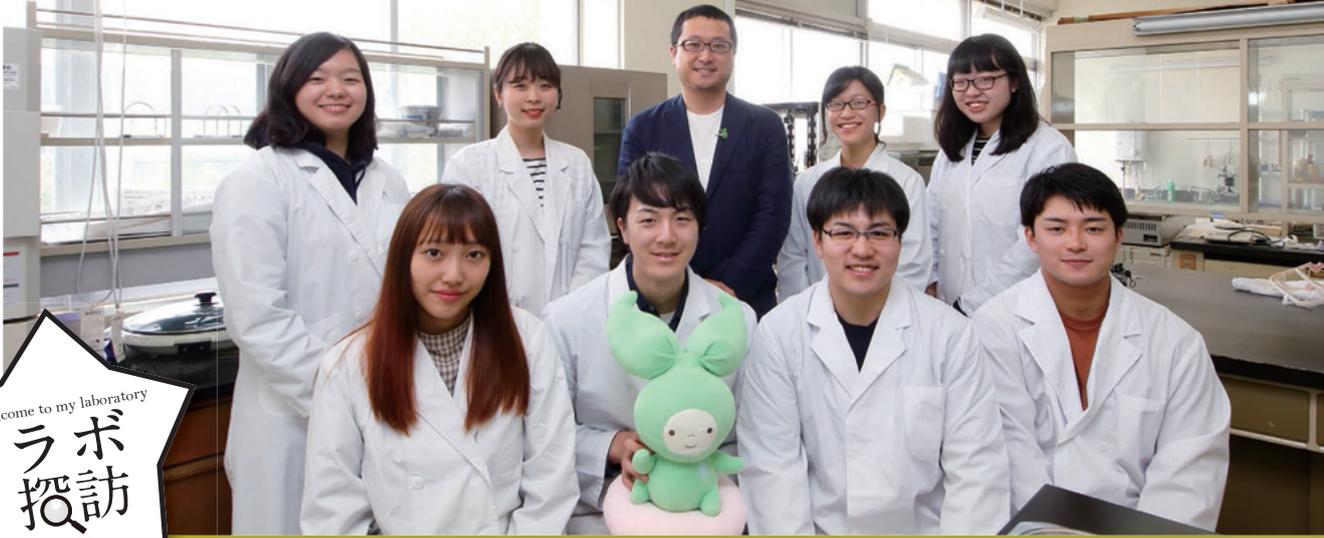
さらに、昨年はマーケティングによって社会課題の解決を図るべく、『『知財を活用した商品アイデア創出事業』in 埼玉』というコンテストにも参加。富士通の開放特許「芳香発散技術」を活用し、集中力が高まる香り付きの単語帳を提案して、最優秀賞を受賞することができました。このように座学だけでなく、フィールドワークや実践的な活動にも力をいれています。

## “内なる国際化”を実現するゼミ環境

埼玉大学経済学部では、パリ第7大学と埼玉大学の両方の大学で学べば、経済学士号と応用言語学士号の学位が取得できるダブルディグリー・プログラム協定を締結しています。

このプログラムを利用した留学生を定期的に受け入れることに加え、留学先から帰国する日本人学生もいるので、当ゼミは常に国際色豊かな雰囲気にあふれています。

英語で話す機会も自然と増えますし、このような“内なる国際化”によって、多様な学生との交流ができるのも魅力の1つだと考えています。



## 教育学部 学校教育教員養成課程 / 上野研究室

# 非加熱調理加工によって 高付加価値食品を生み出す

### 圧力処理や冷凍によって 食品の性質を変える

生卵に大気圧の数千倍の圧力をかけると、タンパク質は変性し、ゆで卵のように黄身と白身は固まります。

私が取り組んできたのは、例えばこのような圧力処理などを施すことで、食品の物性や機能性を変化させ、高付加価値化する研究です。

圧力処理に関してこれまでの実績を挙げると、大豆やタマネギに圧力をかけて保存すると、体に良い成分のギャバ(GABA)やフラボノイドなどを増やすことに成功しています。

また、社会の要請に応える研究も行っており、例えば、東日本大震災で津波をうけた宮城県女川町の復興支援として、元漁師たちが作るイチジク葉茶について血圧上昇をおさえる効果などを明らかにしています。

### 研究領域は食環境の 上流から下流までを網羅

その他にも、研究室では食品成分の分析や新たな食品添加物の開発支援、埼玉県産の食材を使った弁当の開発(昨秋と今春にエキュート大宮で販売)なども行っています。弁当開発は栄養や食物に関する講義の一環であり、教室で学んだ知識を実践する「生きた教材」です。また研究によっては、農産物の産地に赴いて収穫することも——。つまり、“食”を取り巻く環境について、川上である製造現場から消費者に近い川下の領域まで幅広い領域をカバーしているのです。

研究は企業のオファーによるプロジェクトのほか、自ら問題を提起して進めるものの両方ありますが、いずれにせよ、豊かな“食”を実現することを目指し、「美味しさ」や「健康」というところ

を見据えて研究に取り組んでいます。

今後、取り組んでいきたいのは新たな調味料作り。自分が料理する際にあったらよいと思うものですが、これで皆さんの食生活がちょっとでも便利になれば幸いだと考えています。



学生が考案したレシピを元に開発した弁当「トマトクリーム焼パンとベジDELIの彩りアソート〜埼玉県産トマトベリーを添えて〜」

### Profile

上野 茂昭 [うへのしげあき]  
教育学部 准教授

- 2000年 東京理科大学基礎工学部生物工学科卒業
- 2005年 東京大学大学院農学生命科学研究科 博士課程修了、博士(農学)
- 2005年 新潟薬科大学応用生命科学部食品科学科助教
- 2009年 東北大学大学院農学研究科助教
- 2013年より現職

### message

上野准教授より  
受験生へ



### 卒業論文を通して論理的な思考を育む

卒業論文では実験や分析などを行います。指導する上で、教育学部だから——、文系だから——ということは、考えないように心がけています。また、学生は卒業論文の執筆に向けて、それぞれ研究を行います。研究内容は食に関することなら自由ですが、どのような結果が出ても、とにかく最後までやりきることは徹底させています。それは、研究で得られた客観的なデータと向き合うことで、論理的な思考を持って結果をきちんと導き出すことを重視しているからです。そのような経験は、社会に出てきつと役に立つものだと考えています。

### 生活を支える実践科学としての家庭科

私の所属する教育学部家庭科分野は、衣食住のみならず、消費生活や保育、子育てについても学びます。私自身2児の父として子育て中ですが、家庭科分野では、子どもの生活を見る力が養われます。大学の学びが、実生活を豊かにしてくれます。埼玉大学は全学部が1つのキャンパスに集まっているため、国内外を問わず多様な学生、教員に出会えます。勉強する環境も教育・研究力も優れた埼玉をもっと知ってほしいですね。



## 理学部 基礎化学科 / 齋藤雅一研究室

# まったく新しい化合物を生み出し 化学の教科書に新たなページを刻む

### 通常考えられない 化合物を合成

研究内容を簡単に説明すると「これまでになかった化合物を創る」ということになります。さらに、そのような化合物を通して、新しい理論を生み出すことに取り組んでいます。

といっても、ゼロベースで化合物を設計するわけではありません。私の研究では、炭素、水素、酸素、窒素、リンを含む化合物を構成する元素の一部を別の元素に置き換えて新たな化合物を合成します。

例えば、我々の研究室では、2010年に炭素が六角形に結びついた芳香族化合物である「ベンゼン」の骨格を、スズや鉛で置き換えた化合物の合成に成功しています。しかし、このような化合物を作ること自体、非常に困難なことなのです。それは炭素同士の結合は強

いのですが、炭素とスズ、あるいは炭素と鉛では結合が弱くなるから。結合が弱いと、そのままでは空気中の酸素や水分と反応して分解してしまいます。

そこで化合物として存在させるには何らかの工夫が必要になるのです。

研究室のメンバーである古川俊輔助教が「普通では考えられない化合物を創ろうとするのが、僕たちが得意としていること」だと語ってくれましたが、まさにその通りだと言えますね。

### 地道に基礎化学の研究を 続けることの重要性

この研究の醍醐味は、誰もやっていないことにチャレンジして、成果を挙げれば、新しい理論として教科書に掲載されること。つまり「学問をクリエイトできる」のです。

我々が取り組んでいるのは、基礎化学という技術開発の根幹となる川の流れて言えば最も上流の部分。研究の成果がすぐに社会の役立つものではありません。そこから波及して、様々な学問や技術に影響を与えるものだからこそ、将来どのように応用されるかということより、新しい学問や理論を創り上げることを意識して研究に取り組んでいます。



古川助教(左)と齋藤教授(右)

### Profile

齋藤 雅一 [さいとう まさいち]  
理学部 教授

1991年 東京大学理学部化学科卒業  
1996年 東京大学理学系研究科博士課程修了  
1996年 埼玉大学理学部基礎化学科助手  
2002年 埼玉大学理学部助教授  
2009年より現職

### message

齋藤教授より  
受験生へ



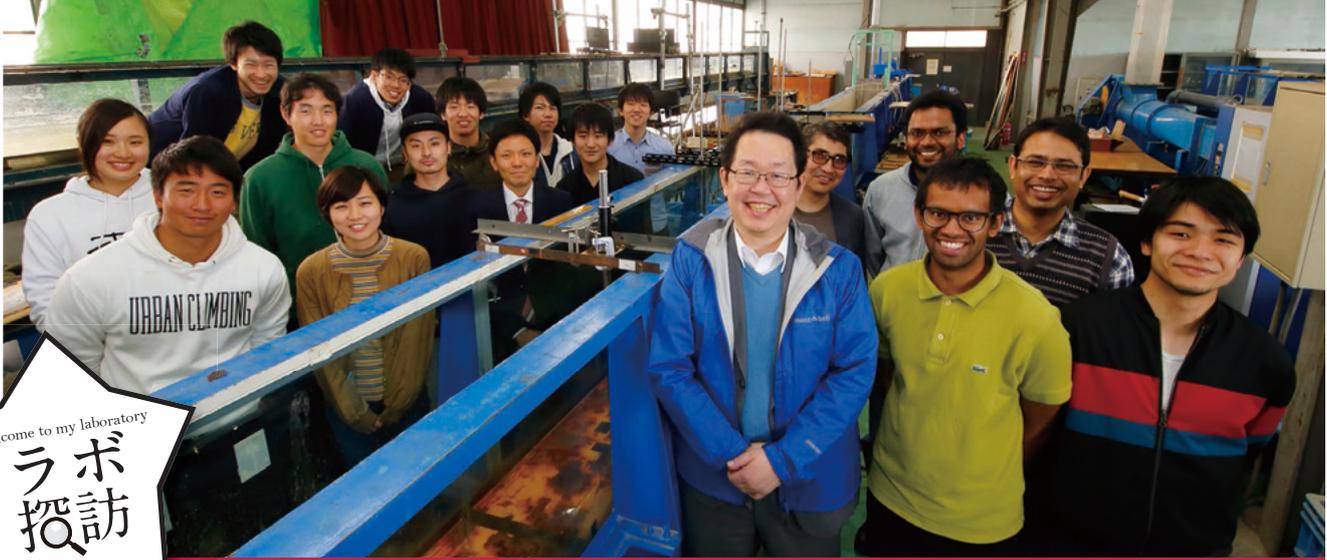
### 偶然の発見を逃さないことが成功への近道

私も若い頃よく言われたことですが、学生たちはポジティブに考えるようにして欲しいと思っています。たとえ研究の結果が絶望的でも「そこから何か見つけてやろう」という気持ちを持つことが大切だと思います。私たちの研究室では、「セレンディピティ(偶然に想定外のものを発見すること)」を意識して研究に臨んでいます。研究の成果というのは「この色の変化は何かおかしいな？」など、偶発的な現象から導かれることが往々にしてあります。そのようなヒントを見逃さないためにも、諦めない気持ちが必要不可欠なのです。

### 自分にしかできないことを行う気持ちで

これから私の研究室に来る学生には、「自分が学問を創造してやろう」という野心を持ってほしいですね。研究には個性が生まれ、結果が出るか出ないかも人によるところが大きいのですが、やはり「自分にしかできないことをやる」気持ちが重要だと思います。

埼玉大学には、基礎的な研究を行うのには申し分のない設備が揃っています。古川助教が言うように、この研究は「化学をツールにして自分を表現したい人」にはベストだと思います。これに思い当たる人はぜひ入学を目指していただきたいですね。



Welcome to my laboratory

ラボ  
探訪

## 工学部 環境社会デザイン学科 / 田中研究室

# 自然環境との共生によって 災害に強い街づくりを実現させる

### 津波や高潮、河川の氾濫から 街を守る「Eco-DRR」

津波や高潮が発生した際、海岸にある干潟や砂丘、海岸林などが、押し寄せる波の勢いを弱めるケースがあります。私が取り組んでいるのは、そのような自然環境を堤防などの構造物と組み合わせることで、防災あるいは減災機能を高める研究。位置関係など、それぞれの要素をどう組み合わせれば効果を最大化できるのかを明らかにする訳です。

生態系を基盤として災害リスクを低減しようという、このような対策は「Eco-DRR」と呼ばれます。堤防などの構造物だけでは災害対策に限界があることを思い知らされた東日本大震災以降、より注目されるようになりました。

現在、取り組みの一環として、減災型街づくりの提案も行っています。具体的には、防風林を生かしながら、堤防や

堀などの人工構造物を組み合わせた北海道のパイロット事業や、私がこの研究を始めるきっかけになったインド洋津波の被害を受けたスリランカでのプロジェクトにも参加しています。また、津波だけでなく、河川の氾濫リスクの軽減も主要な研究テーマの1つ。埼玉県を流れる荒川流域の潜在的氾濫リスクを見える化するプロジェクトなどにも携わっています。

### 対策の第一歩となる 水理現象解明の難しさ

研究は、まず水理模型を使った実験によって、力学的に水の動きや防御のメカニズムを解明することからスタートします。その上で数値解析を行い、一般化していくのです。また災害発生地での調査も重要な研究手法。実際に起きた現象を分析することから様々な

教訓と対策へのアイデアが得られるのです。形のない水が起こす現象は非常に複雑です。だからこそ、よく観察し、じっくり考察しないと何が起きているのかわかりません。そのようなことを常に意識して、日々の研究に取り組んでいます。



多重防御構造を模した水理模型を使った実験の様子。装置内に波を起こし、堤防(左の隆起した部分)と海岸林(右側の棒状のものが並ぶ部分)が及ぼす影響を調べます

### Profile

田中 規夫 [たなか のりお]  
工学部 教授

1986年 東京大学工学部土木工学科卒業  
1991年 東京大学大学院工学系研究科土木工学専攻・博士課程修了  
2000年 埼玉大学工学部講師  
2002年 埼玉大学工学部助教授  
2007年より現職

### message

田中教授より  
受験生へ



### 課題解決のアイデアを自ら創出し、それを実行できる人材に

研究室の学生には、問題解決に向けて、様々なアイデアを出せる力を磨いて欲しいと考えています。そこで、ゼミではこちらからすぐに答えを教えるのではなく、できるだけ学生自身に考えさせるような指導を心がけています。また卒業論文について学生たちに言っているのは「世界初のことに取り組みなさい」ということ。卒業論文といっても1年かけて行う研究です。誰も行っていないことを成し遂げることで得られる自信は大きな財産になります。さらに卒業論文は学会発表を推奨しています。これは提案力や発信力を養うためにも、よい経験になると思います。

### 首都圏で防災・減災研究を行う大きな意義

埼玉県には荒川と利根川という大きな河川がありますが、ここで氾濫などが起こると首都圏に甚大な被害を与える可能性があります。だからこそ、この地域をメインのフィールドとして行う防災・減災の研究成果は、世の中に大きなインパクトを与えるものになります。そのような意味で、埼玉大学での研究は、非常にやりがいのある仕事だと感じています。

また留学生が多いのも埼玉大学の魅力です。学内で自然に国際交流ができるので、将来グローバルに活躍したい学生はぜひ来て欲しいですね。

人気 SNS を活用して埼玉県産農林産物を若者にアピール！

# 学生のアイデアを採用してスタートした 県公式インスタグラム 「埼玉わっしょい」

昨年末、埼玉県の農林産物の魅力を PR するために「埼玉わっしょい」という県公式インスタグラムが開設されました。若者に人気の写真共有サービスを活用した PR 施策として、注目を集めていますが、実は埼玉大学の学生が知事に行った政策提言からスタートしたプロジェクトなのです。



経済学部 メジャー：経済分析4年  
浅見 琴音さん (写真中央/栃木県立矢板高等学校出身)  
宮本 真理子さん (写真左/和歌山県立桐蔭高等学校出身)  
内田 怜さん (写真右/千葉県 志学館高等学校出身)

## インスタグラムの活用が 若者の消費行動を促す？

埼玉大学では、学生が県知事に政策提言を行う「知事と学生の意見交換会」を2010年から毎年開催しています。

11月8日(水)に実施された2017年度の意見交換会には、経済学部と工学部から5つのゼミが参加。地方分権や子育て支援に関する施策が提案されました。

そして、この中で県が採用したのが、経済学部の今泉飛鳥講師ゼミの学生5名が発表した「インスタグラム×若者×県産農林産物」というアイデア。大学生が運営する写真共有サービス「インスタグラム」を活用して、埼玉県の農林産物をPRしようとするもので、提案メンバーの1人である浅見琴音さんは、施策の狙いについて、こう語ります。

「私達が学生を対象に行ったアンケートからも、県が行っていた調査からも、若者が農林産物に興味がないという傾向が見られたため、若者に馴染み深いSNSサービスを活用することで、埼玉県産の農林産物に対する若者の興味を喚起し、消費につなげようと考え

ました」  
知事への発表では「例えば『インスタグラム』の画面を表示し、操作ボタンを押すと画面が切り替わるなど——馴染みのない方にも『インスタグラム』が、どのようなものか分かるように、プレゼンテーション資料を工夫しました」(メンバーの宮本真理子さん)とのこと。この点についてメンバーの内田怜さんは「自分たちに当たり前のものを説明するのは、意外と結構難しいということに気がされましたが、苦勞したおかげで『インスタグラム』をご存知なかった知事にも興味を持っていただくことができました」と振り返ります。

## 政策提言&プロジェクト運用から 学べたたくさんしたこと

そして、埼玉県は「意見交換会」直後に、このアイデアを実行に移すことを決定。それからひと月余りが過ぎた昨年12月21日(木)、埼玉県産農林産物を紹介する県公式インスタグラム「埼玉わっしょい」が開設されました。

また、プロジェクトの実施に当たり、政策提言を行ったメンバー5名を「埼玉わっしょい大使」に任命。情報発信は彼らの手で行われることになりました。

これまで埼玉県産の農林産物を扱う飲食店や直売所の情報や料理写真などを投稿してきましたが、開設以来、閲覧数やフォロワー数は順調に増加してきたようです。

学生たちに、今回の取り組みで得られたことを訊ねると「相手にどう伝えるかを考え、分かりやすく伝えるスキルが身に付きました」(浅見さん)、「県



県庁で行われた「埼玉わっしょい大使」任命式後に、投稿したインスタグラムの写真を上田知事に見せる学生たち

の方と市民の方が求めていることのギャップを埋め合わせることができないと施策は実現できないということに気付きました」(宮本さん)、「これまで気にとめていなかった埼玉県の農産物の魅力に気付けた経験から、当たり前の存在でも視点を変えれば発見があることが実感できました」(内田さん)と答えてくれました。

以上のようなスキルや意識は、社会に出て仕事を行う際にも必要となるものです。今回の経験が学生達にとって有意義なものになったのは間違いなしでしょう。



埼玉県公式インスタグラム「埼玉わっしょい」([https://www.instagram.com/saitama\\_wassyoi/](https://www.instagram.com/saitama_wassyoi/))トップページ

# 第1回「梶田隆章賞」は 理学部数学科卒業の 赤羽裕太さんが受賞



山口学長からクリスタル製の盾を受け取る赤羽さん。この他、副賞として奨学金5万円が授与されました

2018年3月27日(火)、埼玉大学は平成29年度の大学卒業式(会場:大宮ソニックシティ)において、第1回目となる「梶田隆章賞」の表彰を実施しました。ここでは表彰に先だって行われた受賞者のインタビューの様をお伝えします。

**梶田隆章賞とは?** 埼玉大学理学部物理学科の卒業生で、2015年にノーベル物理学賞を受賞した梶田隆章先生の栄誉を称えて、平成29年度に設立された表彰制度。次世代の若手研究者の育成を目的として、毎年度、学業において優秀な成績を収め、かつ高い研究者への志を持つ大学院に進学予定の卒業生1名を表彰します。昨年度は理学部数学科を卒業し、埼玉大学理工学研究科に進学する赤羽裕太さんが受賞しました。

—「梶田隆章賞」の受賞、おめでとうございます。まずは受賞の感想をお聞かせください。

**赤羽さん(以下、敬称略)** ありがとうございます。このような賞をいただいて、驚きもありますが、大変光栄に思っています。以前、大学で開催された梶田先生の講演を聞いたことがあります。その時に、ご自分の探求心に素直に従って、研究に取り組む先生の姿勢に大変感銘を受けました。今後、大学院で研究を続けますが、そのような先生の名に恥じないよう研究に務め、成果を出していきたいと思っています。

—取り組んでいる研究内容を教えてください。

**赤羽** 大学では、代数学幾何学を勉強してきましたが、その中で現在私が取り組んでいるのは代数群というテーマです。群というのは、足し算や掛け算などを抽象化した演算が定義された集合のことで、これを構造として持つ代数多様体という図形の研究を行っています。

—なぜ、この研究を選んだのでしょうか?

**赤羽** 元々数学をやるのなら、代数学を学ぼうと考えていましたが、代数群を選んだのはゼミの先生(渡邊 究助教)からすすめられたのがきっかけです。研究の面白さはもちろん、日本では代数群につ

いて、専門的に研究する方がそれほど多くなく、人と違うことができることにも惹かれました。代数学の研究は、最初は抽象的で分かり難いのですが、進めていく過程でだんだん具体的になっていくところがあります。そんなところが研究を行う魅力ですね。

—大学生活を振り返って思うことは?

**赤羽** 大学生活は、サークルなどには入らず、比較的、勉強一筋の生活を送ってきました。また、勉強については、学ぶ分野を選び好みしなかったことが、結果として正解だったと考えています。代数学以外にも解析学や幾何学などを学んだことで身に付いた「数学全体を俯瞰する視点」が、現在、研究を行う上で役に立っているからです。

—今後の目標について教えてください。

**赤羽** 今後は、大学院に進み、現在在籍する渡邊研究室で研究を続けていきます。大学院に進もうと決めたのは、大学で気付かされた定理の証明や新しいことを発見する楽しさや感動をもっと味わいたかったからです。また、大学だと研究の範囲が限られているので、いま自分が行っている研究を突き詰めたい気持ちもありました。大学院では、研究に割ける時間も増えると思いますので、自分が面白いと思うものを1つでも多く発見していきたいですね。

平成29年度 理学部数学科卒業  
**赤羽 裕太** さん  
埼玉県立大宮高等学校出身



前プロジェクトリーダー  
**小林 祐太さん**  
 YUTA KOBAYASHI



工学部  
 機械工学科4年  
 長野県長野高等学校出身

## オリジナルマシンで サーキットを駆け抜ける！

# Formula Project SU-spirited

### サークルDATA

部員：男子 14名  
 活動場所：大学東門付近  
 ガレージ

今回は全日本学生フォーミュラ大会出場を目指して発足したサークルの活動を紹介します。自分たちで作上げたフォーミュラカーが爆音を轟かせながらサーキットを走るという貴重な経験——そこから得られるものは大きいはず！

### 目標に向けチーム一丸となって マシンを作ろう

Formula Project SU-spiritedは、毎年9月に行われる全日本学生フォーミュラ大会への出場を目標として、2015年に発足したサークルです。

全日本学生フォーミュラ大会とは、大学生が設計、製作した小型のフォーミュラカーの性能を競い合うもの。サークルを立ち上げた2015年には自動車づくりのノウハウもなくゼロからのスタートでしたが、本田技研工業様をはじめとするスポンサー企業のご支援もあり、2017年に念願の初出場を果たすことができました。

大会では94チーム中70位という成績で、参加1年目のチームの中で最もよい成績をおさめたチームに贈られるルーキー賞をいただきましたが、大会前に目標としていたのは30位だったので、正直悔しさもあります。また、ある審査で規定のタイムに届かず、すべての審査に参加できなかったことも残念でした。



現在設計中の2代目のマシンのコンセプトは「ライトレスポンス」。これは初代の「人車一体」というコンセプトを引き継ぎながら、ドライバーの感覚に沿って正しい挙動をするという「right(正しい)」とマシンの軽量化を図るという「light(軽い)」の2つの意味を込めています。次の大会は、このマシンで全ての審査をクリアして完走すると共に、総合得点で30位以内を目指します。

マシンを作っている間は大変なことばかりですが、そんな苦勞を乗り越えて完成したマシンだからこそ、本番当日、サーキットを走れる喜びも一人。

大会期間中は本当にお祭りといった雰囲気になります。

もし自動車やモノづくりに興味があるなら、ぜひ一緒に活動しましょう！もちろん学部や性別は問いません。新入生向けの勉強会を開催することも予定していますので、知識や技術がなくても心配はいりませんよ。

### 主な年間活動予定

- 7月 スポンサー交流会
- 8月 全日本学生フォーミュラ大会合同試走会
- 9月 全日本学生フォーミュラ大会
- 11月 むつめ祭にてマシン展示
- 12月 チーム内走行会

# 卒業生紹介

活躍する卒業生からのメッセージ



「商社に就職したのは、世界を股にかける商売人になりたかったから」と語る尾渡社長

就職した商社で  
出会った  
埼大出身の同僚や  
先輩後輩は  
優秀な人が  
多かったと思います

湘南モノレール株式会社  
代表取締役社長

**尾渡 英生さん**  
Hideo Owatari

## IC & バリアフリー化で快適に

湘南モノレールは、JR大船駅と湘南江の島駅までの6.6kmを結ぶモノレールで、沿線の方や江ノ島・鎌倉に訪れるお客様の移動手段としてご利用いただいています。

私が社長に就任した2015年以来、重点的に取り組んできたのが、認知度と利用者の利便性の向上です。

認知度向上については、地域の人たちと一緒に土地の魅力を発信していく取り組みを行っています。その一環として、映画やTV番組のロケにモノレールや駅を使いたいというお話しは積極的にお願いしますように心がけています。

また、今年4月1日から全駅で改札をIC化したことに加え、終着駅である湘南江の島駅にエレベータを整備。今後も順次、駅のバリアフリー化には取り組んでいくつもりですが、こうしてお客様の利便性を向上させていきます。

## 埼大の思い出はラグビーと学寮

この仕事に就くまで、30年以上商社に籍を置き、様々な土地で様々な仕事をしてきました。ベトナムでは、日本の自動車メーカーの販売会社の副社長を務めるなどしましたが、そのような経験は今の仕事にも生きています。

大学では経済学部で経営学を学びましたが、それは元々商売人になりたいという思いがあったから。また埼玉大学を選んだのは学費が安価な国立大学ということと、高校を卒業して首都圏に出たかったことが理由でした。

大学時代はラグビー部に所属。三年生時にキャプテンを務めました。下級生はもちろん上級生も含めてまとめなければならず、そこで学んだことは、社会に出てからも人間関係を築く上で役に立ったと思います。

入学後、2年間は学寮に入りましたが、寮の仲間達と遊んだりしたのもよい思



「今年5月、ラグビー部の懇親会で久しぶりに大学に行く予定です。大学がどう変わったのか？ 楽しみです」とのこと

い出ですね。

大学卒業後に社会に出ることを考えると、大学時代にいかに世の中と関わられるかが重要だと思います。企業との共同研究など、今の大学は社会と関わる機会が多いので、学生の方にはぜひそのようなチャンスを積極的に生かして有意義な大学生活を送って欲しいですね。

## Profile

福岡県北九州市生まれ  
福岡県立小倉高等学校卒業  
1983年 埼玉大学経済学部経営学科卒業  
1983年 日商岩井株式会社(現・双日株式会社)入社  
2003年 同社自動車第三部副部長  
2008年 スズキ二輪・四輪車製造販売会社  
ベトナムスズキ社取締役副社長  
2011年 双日ロジスティクス株式会社国際事業本部長  
2014年 双日株式会社自動車第三部MMPC担当部長  
2015年より現職

## 学術、文化、芸術で活躍する 卒業生 - 埼玉大学フェロー

最近、埼玉大学卒業生の活躍が目立ちます。この3年で実に学術、文化、芸術の各分野にて卒業生の活躍が認められました。「埼玉大学 All in One Campus at 首都圏埼玉～多様性と融合の具現化」を掲げる埼玉大学の本領発揮です。彼らはみな、出会いの大切さ、仲間の大切さを教えてくれます。皆さんにもその大切さを感じてほしい、学長のページで紹介することにします。

埼玉大学長 山口宏樹



### 埼玉大学フェロー

2010年、埼玉大学はフェロー制度を設けました。埼玉大学に学び、各界で優れた業績を挙げた方に対して、フェローの称号を授与し讃えるものです。

その年、5人の方々に授与しています。作家で数々の文学賞を受賞し紫綬褒章を受章した池澤夏樹氏(1965理学部入学)、クレディセゾン社長で日本経済の発展に尽力した林野宏氏(1965文理学部卒)、バルセロナ五輪女子柔道銀メダリストで世界の女子柔道の発展に貢献した溝口紀子氏(1994教育学部卒)、元在ガボン共和国大使で国際社会の外交業務に貢献した加藤基氏(1969教養学部卒)、Suica開発者で社会生活の利便性向上に貢献した椎橋章雄氏(1976理工学部卒)の5人です。

その後、間は開いたのですが、とても嬉しいことに、私が学長に就任してから、世界で、日本で、大変高い評価を得た3人の卒業生が続き、それぞれに埼玉大学フェローの称号を受けて頂きました。

### 梶田隆章氏：2015年ノーベル賞受賞



埼玉大学・ノーベル賞受賞記念講演会での梶田先生

一人目は、2015年ノーベル物理学賞を受賞された梶田隆章先生。彼は埼玉大

理学部を1981年に卒業し、東京大学大学院に進学しました。お話を伺った際、「本当に物理学の研究を志したのは大学院生の時。幸運なことに、良い師、仲間、研究プロジェクトに出会いました。」と語っています。彼の「出会い」には観測データとの出会いも含まれます。観測データと計算値とのずれに気付き、その解明に専念してニュートリノ質量の発見につながったとのこと。そして、こう続けます。「広く目と心を開いて、大切なものに出会ったときのための準備をして下さい。例えば、勉強です。」

### 小松和彦氏：2016年文化功労者顕彰



埼玉大学フェロー称号授与記念講演会での小松先生

二人目は、2016年11月に妖怪研究の業績で文化功労者に選ばれた小松和彦先生。1970年、埼玉大学教養学部のご卒業です。在学中に文化人類学に出会い、埼玉県両神村でのキツネつきなどに関する調査をきっかけとして研究者の道を歩んでいます。埼玉大学での講演の際、「研究はつらくても、同時に楽しい謎解き。勉強するとき、まずは楽しむことを一番の柱にして頑張ってください。」そして、「埼玉大学に来なかつたら今の研究はしていなかつたかも知れません。チャ

ンスを見つけて自分の道を切り開き、活躍してほしい。」と語っています。

### 根岸右司氏：2017年日本芸術院会員



埼玉大学学長応接室にて懇談する根岸先生

三人目は、雪景色の油彩で著名な洋画家の根岸右司先生で、2017年末に権威のある日本芸術院に推挙されてその会員になりました。彼は埼玉大学教育学部の1961年卒業生で、在学中に生涯の師となる渡邊武夫先生に出会い、県立浦和高校などの美術の先生をやりつつ画家として活躍され、現在は日展の理事もお務めです。埼玉大学にお招きし、学長応接室にて懇談した際に渡邊先生の指導を振り返られ、「よくここまで人の絵に本気になれると感心しました。とても怖かったですが、有難かったです。」と語っています。因みに私は浦高時代に美術部でしたが、根岸先生とはすれ違いでした。

### 埼玉大学は2019年に創立70周年

70周年のキャッチフレーズは「つなげよう未来へ」。あらゆる立場の人をつなぐ架け橋であることが埼玉大学の魅力。ここに示した卒業生と現役学生もつながっています。このことを大切に、埼玉大学はこれからも歴史をつなぎます。

# Information

受験生の皆さんに全国各地で開催される進学相談会、夏のオープンキャンパスについての最新情報をお届けします。  
また、入学試験の内容に関して、平成31年度入試から変更される点があります。変更内容にご注意ください。

## 学外会場進学相談会

平成30年度、埼玉大学は、各地で開催される相談会に参加します。  
参加予定は以下のとおりです。なお、参加会場は、随時、本学ホームページにて公表します。

開催日	会場	開催地	イベント名
5月20日(日)	ツインメッセ静岡	静岡	大学フェア
5月27日(日)	ビエント高崎	群馬	大学進学セミナー
6月 6日(水)	ふれあいキューブ	埼玉	春季進学ガイダンス
6月 7日(木)	大宮ソニックシティ	埼玉	春季進学ガイダンス
6月10日(日)	東京ベイ幕張ホール	千葉	大学進学相談会2018
6月16日(土)	インデックス大阪	大阪	夢ナビライブ2018
6月21日(木)	ウェスタ川越	埼玉	大学進学フェア2018
7月 5日(木)・6日(金)	パシフィックホテル沖縄	沖縄	国公立大学・短期大学相談会
7月 8日(日)	池袋サンシャインシティ	東京	全国国公立・有名私立大相談会
7月14日(土)	東京ビッグサイト	東京	夢ナビライブ2018
7月28日(土)	ポートメッセ名古屋	愛知	夢ナビライブ2018
7月29日(日)	パシフィコ横浜	神奈川	全国国公立・有名私立大相談会
8月18日(土)	朱鷺メッセ	新潟	主要大学説明会
8月21日(火)	東京ビッグサイト	東京	主要大学説明会
10月 6日(土)	夢メッセみやぎ	宮城	夢ナビライブ2018

## 夏のオープンキャンパス情報

平成30年度の日程は以下のとおりです。

開催日	学部	内容
8月 7日(火)	理学部・工学部	学部説明、 キャンパスツアー、 個別相談等
8月 8日(水)	教養学部・経済学部	
8月 9日(木)	教育学部	

※上記のほか、授業公開等の開催を予定しています。

## 資料請求

パソコンやスマホ、携帯電話、自動音声応答電話等から請求していただけます。その他、正門横にある守衛所でも24時間受け取ることができます。



## 入試情報(平成30年3月31日時点)

平成31年度入試の主な変更点は以下のとおりです。

- 教育学部前期日程中学校コース社会専修において、個別学力検査に課している「総合問題」を「小論文」に変更します。

変更点は以上ですが、あくまでも予定ですので、詳細については、平成30年7月頃公表する「平成31年度入学者選抜に関する要項」にてご確認願います。

入試情報を  
しっかり  
チェック!

埼玉大学マスコットキャラクター  
メリンちゃん



### 埼玉大学入試 LINE @

LINE @アカウントを友だち登録していただいた方に、入試情報、入試関連イベントのお知らせなど受験生のみなさんに役立つ情報をお届けします。



### SAIDAI CONCIERGE vol.27

■発行日 2018年5月  
■企画・編集発行 埼玉大学広報渉外室  
■問い合わせ先 〒338-8570 さいたま市桜区下大久保255  
TEL 048-858-3932 FAX 048-858-9057  
E-mail koho@gr.saitama-u.ac.jp

